

扉の向こうへ

プロローグ 集いの場で

山梨発 ひきこもりを考える

送り盆の16日、甲府・県立図書館の交流ルームに、ひきこもりの当事者と家族らが次々と入っていった。ひきこもりの取材を続けるジャーナリスト池上正樹さんによる本人同士の交流会と、全国引きこもりKHJ親の会(池田佳世代表)による保護者への相談会が開かれていた。

ひきこもりの男性 「山梨では悩みを打ち明けられる場所がなくて、苦しかった」
ひきこもりの子を持つ親 「誰にも相談できなくて……」
周囲に理解されない苦悩を、それぞれ絞り出すように吐き出す。

その後始まった池上さんと池田代表の講演会には100人近くが詰め掛け、急ぎよ席を追加した。

「誰もがひきこもりになり得るんです」「子どもの気持ちに寄り添う姿勢が求められています」。2人の発言に耳を傾け、熱心にメモを取る参加者たち。世間と隔絶され、「居場所」を探し求める切実な願いが色濃く浮かんだ。

ある日を境に、部屋や家が

居場所求めめる切実な声

きこもり」。インターネット上の百科事典「ウィキペディア」英語版に「Hikikomori」と掲載されるほど、言葉は広く認知されている。だが、その実像は正しく伝わっているだろうか。

「ひきこもり」について、厚生労働省は「仕事や学校に行かず、家族以外とほとんど交流せずに6カ月以上自宅にひきこもっている状態」と定めている。しかし、定義は複数存在する。実数も不明だ。

内閣府は推計値として「全国70万人」としているが、対象年齢は15〜39歳で、問題となっている中高年のひきこもりはカウントしていない。なぜ、ひきこもってしまうのか。学校でのいじめや挫折

ひきこもりは、高齢者の介護や人口減、地域の衰退にも影響を与えかねない。個人や家族の領域にとどまらず、社会の問題に広がりうる。だが、政治も行政も、積極的にひきこもりの問題に立ち入ることはしない。公共機関が出向いて支援する「アウトリーチ」が必要、と言われて久しいが、実践はごく一部にとどまっている。

の体験、職場の人間関係によって、外に出られなくなってしまう人もいれば、発達障害や統合失調症が関係していることもある。ひきこもりの期間が長引き、「自分でも、どうしてこうなったのか分からない」というケースもある。学校や職場、地域とつながる「普通の暮らし」を送っている人たちの目に、ひきこもる人の姿は入らない。見えないから、問題になりにくい。

ひきこもりは特別な人の特別な現象ではなく、誰もが突然陥る可能性がある。自分の身でありながら思い通りに動けない本人の焦り、「怠けてる」「甘えた」と世間に切り捨てられて誰にも相談できない家族。有効な手だてがないまま時間だけが過ぎていく。ひきこもる人々と社会との間には、重い扉が存在する。その扉を開くために、本人や家族はどうすればいいか。周囲は何かができるのか。連載では、ひきこもりについて、その実態や関係者の苦悩、問題の影響、支援の現状とあり方を探っていく。扉の向こうへ、一歩を踏み出すために。

約100人が詰め掛けた、ひきこもりをテーマにした講演会。席が足りずに立ち見の人も
—甲府・県立図書館



見えないけれど、ここにいる

この企画へのご意見や感想をお寄せください。郵便番号400-8515、甲府市北口2の6の10、山梨日日新聞社編集局「扉の向こうへ」取材班(ファクス055-231-3161、電子メールkikaku@sannichi.co.jp)。交流サイト「フェイスブック」の本紙公式ページ(<http://www.facebook.com/sannichinews>)、短文投稿サイトのツイッター(@sannichi)でも情報を発信しています。

〈9月から連載を始めます〉
「扉の向こうへ」取材班 関連記事 22面、特集 11面

ひきこもり 長期高年齢化

仕事や学校に行かず、自宅に閉じこもる「ひきこもり」が社会問題となっている。その形態はさまざまで、当事者をはじめ家族も周囲に隠す傾向が強く、実態が見えにくいのが実情だ。長期化、高年齢化が問題視さ

れ、現代社会に大きな影響を及ぼすとの指摘もある。ひきこもりへの理解を深める材料として、国や他県の実態調査結果、識者へのインタビューを紹介する。

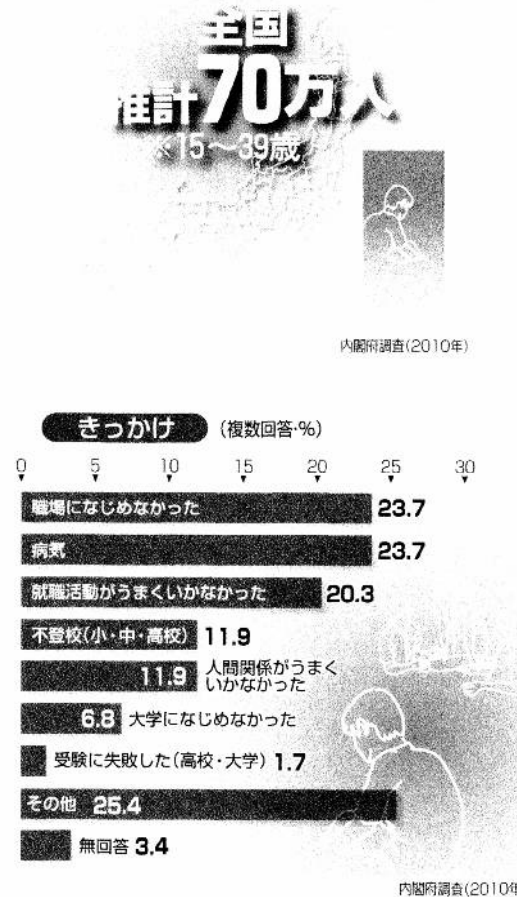
〈古守彰〉

就活、職場の人間関係も契機

内閣府は2010年に実施したひきこもりの実態調査、仕事や学校に行かず家族以外と交流しない人が70万人いると推計している。調査結果からは、不登校から長期化するケースのほか、就職や職場の人間関係に起因して30歳を超えてからひきこもる人も少なくない実態が浮かぶ。

「青少年に関する調査研究」の一環、全国の15歳から「ポスト青年期」の39歳までの男女5千人を対象に調査員が訪問する方法で実施した。3287人の回答から、自分の部屋や家から出ない状態が半年以上続かなかった」と「病気がそれを理由で7%で最多。次いで「就職活動がうまくいかなかった」の20.3%だった。また不登校も複数回答は、「家族に申し状ない」と思うことも多いが71.2%で最も多く、「集団の中に溶け込めない」(52.5%)、不登校と結びつけられがたが、就職や職場での人間関係も大きな要因だ」と指摘している。

内閣府の担当者は「ひきこもりは、ひきこもりに該当する人は女性が33.9%だったのに対し、男性は66.1%とほぼ倍。「親和群」は女性が63.4%で男性を上回った。一方、ひきこもる人の生活費を誰が「生計維持者」を聞いたところ、1割以上が両親のいずれかで、自分で生計を立てている人は15.5%だった。また不登校も複数回答は、「他人がどう思っているか」よりも「安(50.8%)が続いた。悩みを相談する相手は、親が40.7%と最多。ひきこもりに該当しない人と比較すると、「友人・知人」は28.1%低い37.3%で、逆に誰にも相談しない」は15.5%高い27.1%だった。



全国
推計70万人
15~39歳



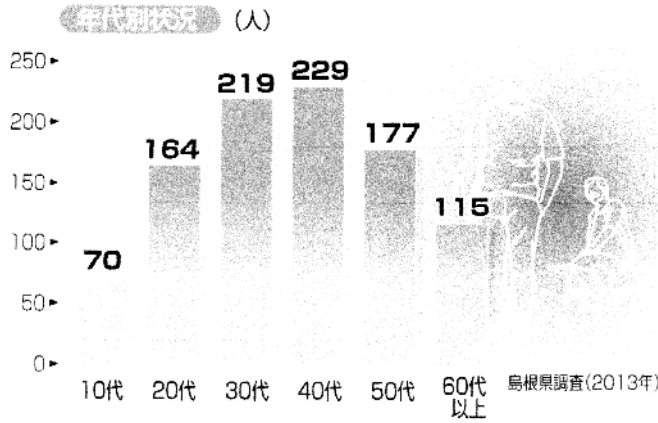
内閣府調査(2010年)



内閣府調査(2010年)

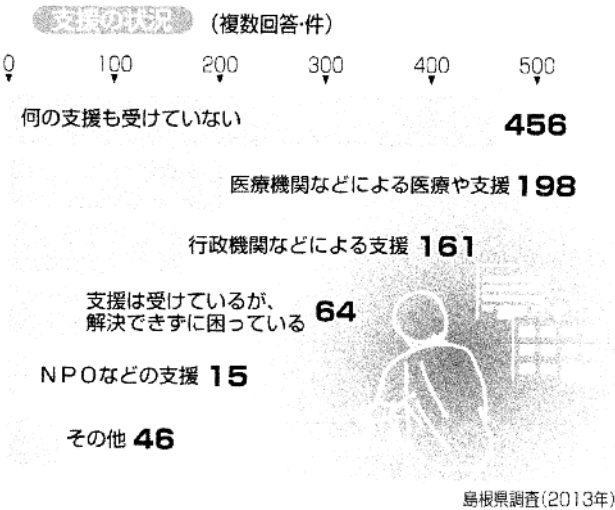
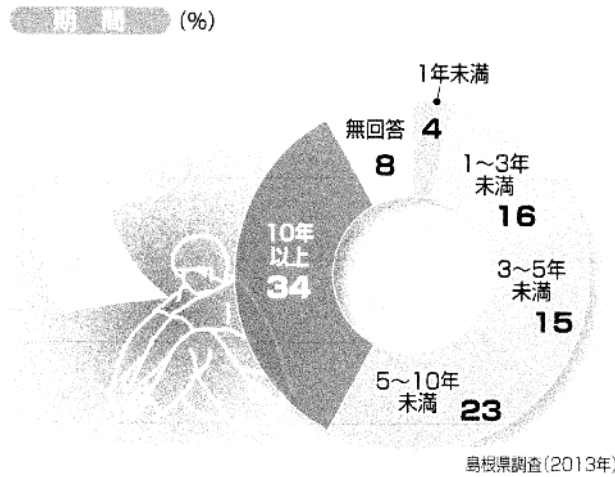
島根県の場合

40歳以上53%、10年以上も



大半 何の支援も受けず

山梨県と人口規模が近い島根県が昨年11月、ひきこもりの実態調査をした。その結果、ひきこもっている人の半数以上が40歳以上の中高年層で、4人に1人が10年以上のひきこもり経験があることが分かった。ひきこもりをめぐっては、親の会などの継続調査を踏まえ、「長期高齢化」が進んでいるとの指摘がある。島根県の調査結果は、15～39歳を対象にした内閣府調査では見えてこなかった、ひきこもりの長期高齢化を裏付けたとも言え、同県は「生活保護予備軍」と位置付けて支援態勢の拡充を検討している。島根県の調査は昨年11月、日ごろ地域を回っている民生委員と児童委員に聞く方法で実施。回答率は81.2%だった。同県はひきこもりの定義を、15歳以上で①仕事や学校に行かず、家族以外と交流せずに、6



業者や非行などを心配する状況だったり、家族から支援について相談があったりする一に設定。調査して把握した人数は1040人で、人口(約70万2千人)の0.15%だった。年齢別に見ると、40代の22.9人が最多。30代21.9人、50代17.7人、20代16.4人と続上」が増え、「年齢の高い層で長期化している傾向が見られ、解決が困難な状況が見て取れる」と指摘された。ひきこもるようになったきっかけ(複数回答)について、40代は「分らない」(計312件)との回答が各年代で3割を占めた。ひきこもる期間が長期にわたる、直接的な原因の説明が難しくなったとみられる。把握できる範囲で多かったのは、「疾病・性格など」「失業」「不登校」の順。このうち「失業」は30、40代が多い。一方、支援の状況を聞いたところ、多くが「何の支援も受けていない」(456件)と回答。「医療機関などによる医療や支援」(198件)、「行政機関などによる支援」(161件)、「NPOなどの支援」(15件)もあったが、支援を受けていながら「解決できずに困っている」との答えが64件あった。自由記述では、「どこに相談に行けば適切な支援が受けられるのかを知りたい」「親がいなくなるのが心配」などの意見が寄せられた。必要な支援として、主に「支援や相談窓口の周知」や「専門的な医療支援やカウンセリングの充実」を求める声が多かった。

カ月以上自宅に閉じこもっている②家族以外と交流はないが、買い物などで時々外出する③無業者が非行などを心配する状況だったり、家族から支援について相談があったりする一に設定。調査して把握した人数は1040人で、人口(約70万2千人)の0.15%だった。年齢別に見ると、40代の22.9人が最多。30代21.9人、50代17.7人、20代16.4人と続上」が増え、「年齢の高い層で長期化している傾向が見られ、解決が困難な状況が見て取れる」と指摘された。ひきこもるようになったきっかけ(複数回答)について、40代は「分らない」(計312件)との回答が各年代で3割を占めた。ひきこもる期間が長期にわたる、直接的な原因の説明が難しくなったとみられる。把握できる範囲で多かったのは、「疾病・性格など」「失業」「不登校」の順。このうち「失業」は30、40代が多い。一方、支援の状況を聞いたところ、多くが「何の支援も受けていない」(456件)と回答。「医療機関などによる医療や支援」(198件)、「行政機関などによる支援」(161件)、「NPOなどの支援」(15件)もあったが、支援を受けていながら「解決できずに困っている」との答えが64件あった。